平成２６年度　政務活動費　先進都市調査報告書

会派名	市政創造
議員名	我妻静夫･岡田健一･山川明･山中正尚･古澤孝市･徳中嗣史･早川昇三
調査実施年月日	平成26年7月1日(火)
調査先　自治体名等	広島県　広島市教育委員会　学校教育部　指導1課
調査項目	1．学校教育の取り組みについて
調査目的	1．ひろしま型カリキュラムの開発･推進について 2．研究成果と今後の取り組みについて
報告内容 実施したこと	1　視察先(市町村)の概要 人口 ： 1,182,403 人(H25.3.31現在)　　行政面積 ： 905.41 k㎡ 2　視察内容 (1) 学校教育の取り組みについて ① ひろしま型カリキュラムの開発･推進について ② 研究成果と今後の取り組みについて
感想（まとめ） 本市へ生かせること等	1．学校教育の取り組みについて ①ひろしま型カリキュラムの開発･推進について 「ひろしま型カリキュラム」は、平成18年11月に、「ひろしま型義務教育創造特区」として国の認定を受けた本市独自の教育課程であり、平成19年度から3年間の研究開発等での実践研究を経て、平成22年度4月から、全小･中学校で実施しています。 この「ひろしま型カリキュラム」は、子ども達の言語運用能力、数理運用能力を定着させ、思考力･判断力･表現力の向上を図るため、 ○ 小･中学校の連携･接続の改善 ○ 小学校5年生から中学校3年生での「言語･数理運用科」の実施 ○ 小学校5･6年生での「英語科」の実施 を3つの柱として取り組んでいます。 「言語運用能力と数理運用能力は、物事や事象等について思考、判断、表現するために必要な能力であるばかりでなく、将来必要となる知識や技術を得るために身に付けるべき能力であり、こうした認識のもとで、これらの能力の向上を主たる目的」としています。また、小･中学校9年間を見通した広島市独自のカリキュラムとなっています。 ②研究成果と今後の取り組みについて ひろしま型カリキュラムの推進についての学校改善支援プランの評価は、小･中学校の連携･接続の改善では、「基礎･基本」定着状況調査の結果からは、学習内容が概ね定着している状況を示す基準である平均通過率60%を全ての教科で上回っており、基礎的･基本的な学習内容は全体として定着していると考えられました。一方、小中連携の質問紙調査の結果からは、全ての中学校区で小中連携教育の取組が行われており、授業公開や協議、情報交換を行うことが、学力向上における課題や生徒指導上の課題を共有する機会になっており、小中共通の研究主題の内容や研究推進の仕方、教育研究会開催の日程調整等に課題がありました。 2．感想 「ひろしま型カリキュラム」は、小･中学校9年間を見通した広島市独自のカリキュラムで一定の成果があり内容も良いと思いました。しかし、先生の指導も必要で課題もありますが、このカリキュラムで使用している資料は大変良いと思いました。今後の本市の学力向上の資料として参考にしたいと思います。